

【ねがいましては】

第100号

平成9年11月28日

共和珠算学習塾

「あたたかい戴きもの」

10月末のことです。突然「そうだっ!」と、電車に乗り渋川市を訪ねました。何線だっけ?などと迷いながら、しかも特急などはないなく、普通車両のみで・・・。

実は1年ほど前、伊香保温泉を訪ねた際、その途中、車中から銀行を発見、というよりポスターに目が釘づけに・・・。銀行の窓一面に貼られた大きな子ネコのポスター。目をつむり、両手を広げ、肉球はピンク色そのもの・・・。しっかりと私の瞼の奥へと保存されました。

「会いたいな」それだけの理由で出かけたわけです。はたから見れば「アホッ」でしょう。しかし、ひょっとしたら今でも貼ってあるかもしれない。たとえ貼られていなくても保存されているかもしれない。そのワクワク感だけを抱えながら電車は現地へと向かいます。

やがて駅へ到着、15分ほど歩くと「たしかこの銀行だったかな?周りには銀行らしい銀行はこの一行だけ・・・」そして意を決して入行。「あの一、とても変な質問なのですが・・・」わたしは1年前のいきさつを行員さんにしました。(お仕事とは全く違うことなので恐縮しきりでした)「はいっ、たしかにありましたけど・・・少々お待ちください」行員さん(女性)は奥の部屋へと入っていきました。

私は恥ずかしさを全身に感じながら椅子に腰かけ待ちます。やがて支店長さんが直々に現れ応接間へ通されました。お茶までいただき、例のポスターがそこにはありました。「感激」とはこのことですね。小さな勇気とはこのことなのですね。

私は感謝のかたちとして僅かではあったのですが、定期預金をつくりました。そしたらなんと粗品までいただきました。残念ではあったのですが、私が目撃したポスターは結局見つからず、違うものではあったのですが、同様のネコちゃんのポスターをいただきました。

日帰りの本当に小さな旅ではあったのですが、こころが晴れ渡る思いをさせていただきました。その土地で懸命に働かれる方々の笑顔に触れ、心に触れ、「来てよかった」と、帰りの車中から見える景色を重ねながら余韻に浸っていました。あたたかい「こころ」を頂いた一日でした。

そして翌日です。銀行から電話がありました。「きのうのポスター、ありました。渋川支店の方へ取り寄せておきますので、またの機会にお立ち寄りください」とのこと。

これこそが「ひと」の勉強ですね。「こころ」の勉強。「おもいやり」の勉強。思いもかけないある時のたった一度の出会いが、こんなにもあたたかい贈り物として自分の中に残り続けてくれることに感謝です。

今回のひよんな旅は、「モノ」を介在していたわけですが、それが「ひと」と「ひと」との間の大切な思い出としてプレゼントされたこと、この思いを同様に子どもたちへもプレゼント出来たらどんなに素敵だろう・・・。子どもたちは日々、勉強という競争の中で苦しんでいます。その中に「ぽっ」と灯る小さなあかりを与えることができればいいな。そんな気持ちになれました。生涯忘れたくない感情です。

子どもたちよ、人のために自分には何の得もないけれどしてあげられることがあればしてあげましょう。目の前にいる人の表情が「ぽっ」と明るくなることをしてあげましょう。それはきっと目の前の人が感じていることより何倍も大きな喜びとしてあなた方に戻ってくるような気がいたします。